

岡山県感染症週報 2013 年 第 10 週 (3 月 4 日～3 月 10 日)

【お知らせ】 次週、第 11 週(3/11～3/17)の感染症週報は 3 月 25 日(月)にホームページに掲載いたします。

◎ 岡山県は『インフルエンザ警報』発令中です。

◆2013 年 第 10 週 (3/4～3/10) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況

第 9 週	2 類感染症	結核	3 名 (20 代 女 1 名、30 代 女 1 名、70 代 女 1 名)
	5 類感染症	風しん	1 名 (20 代 女)
第 10 週	2 類感染症	結核	3 名 (20 代 女 1 名、60 代 女 1 名、70 代 男 1 名)
	4 類感染症	レジオネラ症	1 名 (70 代 女)
	5 類感染症	アメーバ赤痢	1 名 (50 代 男)
		後天性免疫不全症候群	1 名 (40 代 男)
		風しん	1 名 (30 代 女)

■定点把握感染症の発生状況

- インフルエンザは、県全体で 1,001 名 (定点あたり 14.36 → 11.92 人) の報告があり、第 6 週以降減少傾向です。岡山県では、ひきつづき『インフルエンザ警報』発令中です。
- 感染性胃腸炎は、前週とほぼ同数でした (定点あたり 9.24 → 9.96 人)。

【第 11 週 速報】

- インフルエンザとみられる学校等の臨時休業が 15 施設でありました。(3 月 11 日～3 月 14 日まで)
- 発熱・腹痛等による臨時休業が倉敷市の小学校 1 校でありました。(3 月 14 日)

1. **インフルエンザ**は、県全体で 1,001 名 (定点あたり 11.92 人) の報告があり、前週 (14.36 人) より減少しました。岡山県は『インフルエンザ警報』発令中であり、ひきつづき注意喚起を図っています。地域別では倉敷市、備中地域、真庭地域で発生レベル 3、岡山市でレベル 2 が継続しています。依然として流行シーズンにありますので、手洗い・うがいなど感染予防に努めてください。県内の詳しい発生状況などは『インフルエンザ情報』をご覧ください。全国の第 9 週 (2/25～3/3) の集計によると、定点あたり 12.26 人であり、前週 (13.90 人) よりも減少しました。第 5 週以降減少がつついており、39 都道府県で前週の報告数より減少しました。
2. **感染性胃腸炎**の定点あたり患者数は、前週とほぼ同様でした (定点あたり 9.24 → 9.96 人)。県内の発生状況など詳しくは『感染性胃腸炎情報』をご覧ください。
3. **風しん**は第 9 週に 1 名、第 10 週に 1 名の発生があり、岡山県では 2013 年第 1～10 週までに 8 名が報告されています。この患者 2 名は女性で、20 代 1 名、30 代 1 名であり、それぞれの風しん予防接種歴は 1 回接種有り、及び接種不明でした。昨年春からの全国的な風しん患者増加以降、県内で女性患者が報告されたのは初めてです。県内の詳しい発生状況等は、『今週の注目感染症』をご覧ください。春休みに入るこれからの時期は、旅行や進学・就職などで人の移動も多くなります。関東地方など風しんの流行地域に出掛け、その後、全身性の発疹、発熱、リンパ節腫脹などの症状がでた場合は、風しんの可能性もありますので早めに医療機関を受診してください。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ		★★★★★	RSウイルス感染症		★
咽頭結膜熱		★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		★★★
感染性胃腸炎		★★★★	水痘		★
手足口病		★	伝染性紅斑		
突発性発疹		★★	百日咳		
ヘルパンギーナ			流行性耳下腺炎		★
急性出血性結膜炎		★★	流行性角結膜炎		★
細菌性髄膜炎		★	無菌性髄膜炎		
マイコプラズマ肺炎		★	クラミジア肺炎		★★★

【記号の説明】 前週からの推移:  : 2 倍以上の減少  : 1.1~2 倍未満の減少  : 1.1 未満の増減
 : 1.1~2 倍未満の増加  : 2 倍以上の増加

発生状況: 空白:発生なし ★:僅か ★★:少し ★★★:やや多い ★★★★:多い ★★★★★:非常に多い
※今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。

【医療機関の方へのお知らせ】

感染症法施行規則の改正が行われました。（平成 25 年 3 月 7 日）

これまでヘモフィルス・インフルエンザ菌 b 型感染症（ヒブ）及び肺炎球菌を含めた細菌性髄膜炎については「細菌性髄膜炎」として定点(基幹定点)報告のみとなっていましたが、新たに「侵襲性インフルエンザ菌感染症」及び「侵襲性肺炎球菌感染症」による感染症が五類全数把握対象疾患となりました。

また、併せて、髄膜炎菌による感染症については、これまで「髄膜炎菌性髄膜炎」として五類全数把握対象疾患としてきましたが、髄膜炎のみならず、敗血症等を含めて把握するため、「髄膜炎菌性髄膜炎」を「侵襲性髄膜炎菌感染症」に変更する改正も行われました。

改正のポイントは以下のとおりで、平成 25 年 4 月 1 日から施行されます。

<改正省令の概要>

(1) 五類感染症の対象疾病

・五類感染症の対象疾病について、以下の疾病を追加する。

- ①侵襲性インフルエンザ菌感染症
- ②侵襲性髄膜炎菌感染症
- ③侵襲性肺炎球菌感染症

・①、②及び③の疾病の追加に伴い、これらの疾病との重複を避けるため、細菌性髄膜炎からこれらの疾病を除くとともに、髄膜炎菌性髄膜炎を削除する。

(2) 全数把握対象疾患及び定点把握対象疾患

侵襲性インフルエンザ菌感染症、侵襲性髄膜炎菌感染症及び侵襲性肺炎球菌感染症については全数把握対象疾患（五類）とする。（細菌性髄膜炎についてはひきつづき定点把握対象疾患（基幹定点）とする。）

また、平成 25 年 4 月より届出基準及び届出様式が変更になる感染症があります。
詳しくはこちらをご覧ください。

[○感染症法に基づく医師の届出のお願い（厚生労働省ホームページ）](#)

今週の注目感染症

風しん

風しんは、「三日ばしか」とも呼ばれ、感染症発生動向調査において全数把握感染症の5類感染症であり、医師は風しん患者を診断したときには、最寄りの保健所に届け出ることになっています。

[\(国立感染症研究所 風しんQ&A\)](#)

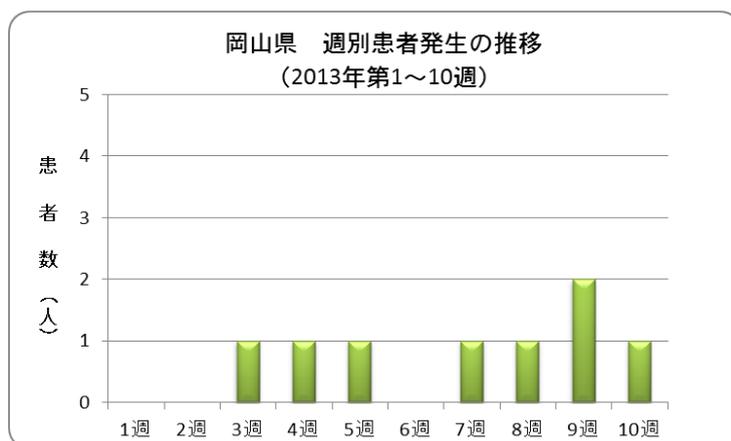
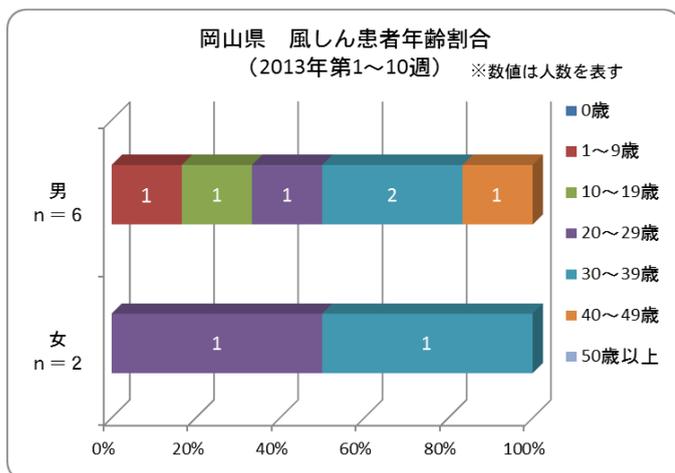
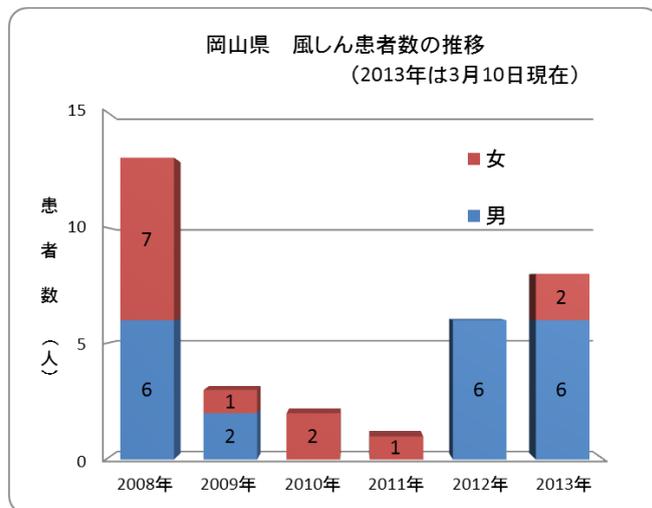
【岡山県の風しん発生状況】

岡山県では、調査の始まった2008年以降、患者は減少傾向にありましたが、昨年は6名、今年は第10週までに、すでに8名が報告されています。

今年報告があった患者は、男性6名、女性2名であり、年齢は小学生から40代までです。患者の風しん予防接種歴は、予防接種歴無しが4名、接種不明が3名、1回目のみ接種が1名でした。

今年風しんは、首都圏を中心に大きな流行になっています。岡山県でも今年はずでに2008年の調査開始以降2番目に発生が多くなっており、今後の増加が懸念されます。

風しんは春から初夏に患者が増加するといわれていますので、今後の発生動向に注意してください。



【全国の風しん発生状況】

昨年、風しんは全国で2,353名の報告があり、過去5年間では最も多い報告数となりました。近畿地方や首都圏で報告が多く、患者の7割以上は男性で、うち20代～40代が8割を占めました。今年も、同様の傾向であり、特に首都圏での増加が顕著となっています。今年患者数は、第1～9週までに1,303名。昨年同時期の20倍以上になっています。また、第8週(2/18～2/24)における1週間の報告数は284名、第9週(2/25～3/3)は199名にのぼり、第6週以降1週間に200人前後が報告されるなど、患者増加がつついています。

全国の発生状況はこちらから [○風しんの患者数が増加しています\(国立感染症研究所ホームページ\)](#)

<風しんの予防接種を受けましょう。>

【風しんの定期予防接種対象者】

1歳児、小学校入学前1年間の幼児、中学校1年生、高校3年生相当の方は、岡山県内全ての市区町村において、無料で受けられます。

ただし、中学校1年生、高校3年生相当の方は、平成25年3月末までとなっています。

【また、妊婦を守る観点から】

特に、

- (1) 妊婦の夫、子ども及びその他の同居家族
- (2) 10代後半から40代の女性(特に、妊娠希望者又は妊娠する可能性の高い方)
- (3) 産褥早期の女性

のうち、抗体価が十分であると確認できた方以外の方は、任意での予防接種を受けることをご検討ください。

[○厚生労働省 「風しんについて」](#)

インフルエンザ情報 2013 年 第 10 週 (3 月 4 日 ~ 3 月 10 日)

【お知らせ】次週、第 11 週(3/11~3/17)のインフルエンザ情報は 3 月 25 日(月)にホームページに掲載いたします。

岡山県は「インフルエンザ警報」発令中です。

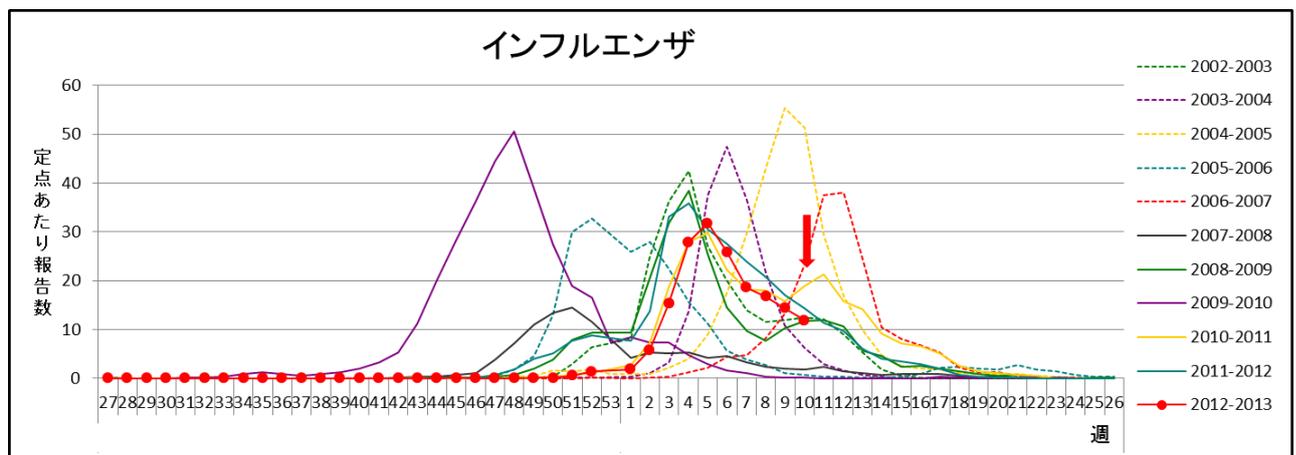
➤ 岡山県の流行状況

- インフルエンザは、県全体で 1,001 名 (定点あたり 14.36 → 11.92 人) の報告があり、第 5 週をピークに減少傾向です。岡山県は『インフルエンザ警報』を発令し、ひきつづき注意を呼びかけています。
- インフルエンザとみられる学校等の臨時休業が 43 施設でありました。
- インフルエンザによる入院患者 6 名の報告がありました。

【第 11 週 速報】

- インフルエンザとみられる学校等の臨時休業が 15 施設でありました。(3 月 11 日~3 月 14 日まで)

▽岡山市 5 ▽倉敷市 2 ▽備前地域 3 ▽備中地域 3 ▽備北地域 1 ▽真庭地域 1 ▽美作地域 0



※インフルエンザは、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、前年 27 週 ~ 今年 26 週を 1 シーズンとして、グラフを作成しています。

インフルエンザは、県全体で 1,001 名 (定点あたり 14.36 → 11.92 人) の報告があり (84 定点医療機関報告)、前週より減少しました。岡山県は『インフルエンザ警報』発令中であり、ひきつづき注意喚起を図っています。

美作地域は発生レベル 2 からレベル 1 になったものの、倉敷市 (23.50 → 16.44 人)、備中地域 (16.17 → 14.33 人) 真庭地域 (16.67 → 11.00 人) では大きな流行が継続していると思われる発生レベル 3*が、岡山市では流行が継続していると思われるレベル 2 がつづいています。

多くの地域で患者は減少し、第 5 週 (定点あたり 31.79 人) をピークに減少傾向にあります。減少はゆるやかであり、依然として定点あたり 10 人を越えています。県内での流行はつづいていますので、手洗い・うがいなどの感染予防を心がけ、症状のある方は早めに医療機関を受診するとともに、マスクを着用するなど咳エチケットを心がけましょう。また一度インフルエンザにかかっても、型の異なるインフルエンザウイルスに再びかかることがありますので注意が必要です。

※発生レベル 3 の開始基準を一度超えると、終息基準値 (10.00 人) より下がらないと、レベル 3 は解除されません。

◆ インフルエンザは依然として流行期にあります。ひきつづき感染予防に努めて下さい。

【インフルエンザにかかったら】

- 家に帰ったら、手洗い・うがいをしましょう。
- 人混みに入る時は、マスクを着用しましょう。
- 十分な睡眠、バランスの良い食事などに気を付けて、抵抗力をつけましょう。

【かかったかな?という時は】

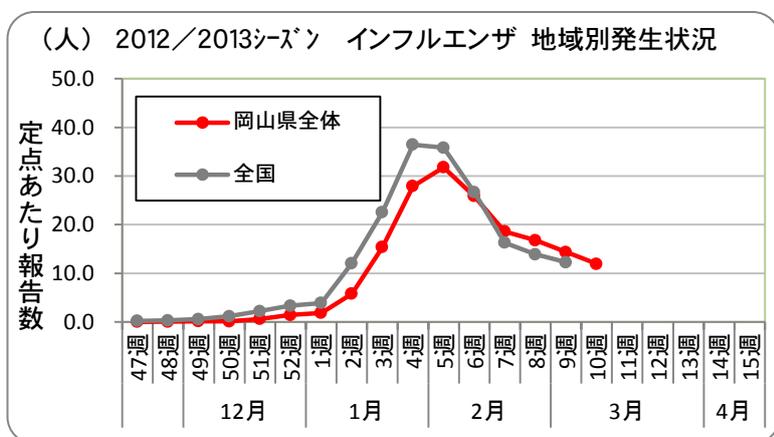
- 早めに医療機関を受診し、確実に治療しましょう。
- できるだけ屋間を受診し、必ずマスクを着用して受診しましょう。
- 周りの人にうつさないように「咳エチケット」を心がけましょう。

1. 地域別発生状況

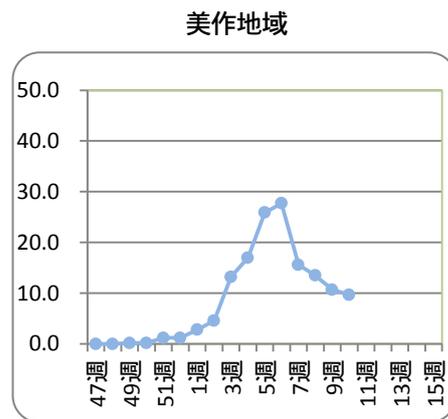
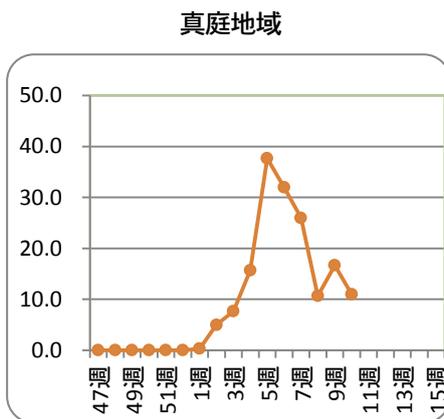
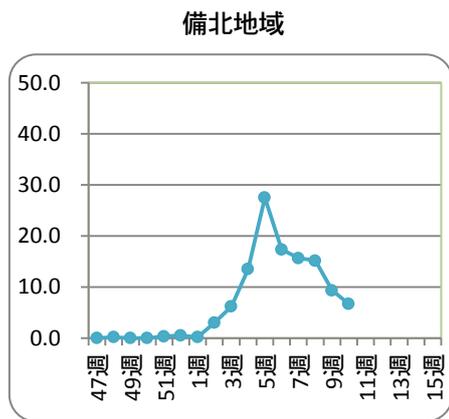
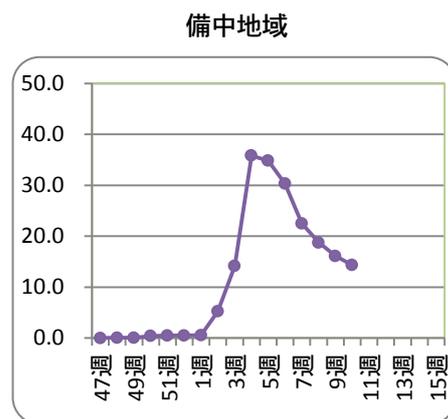
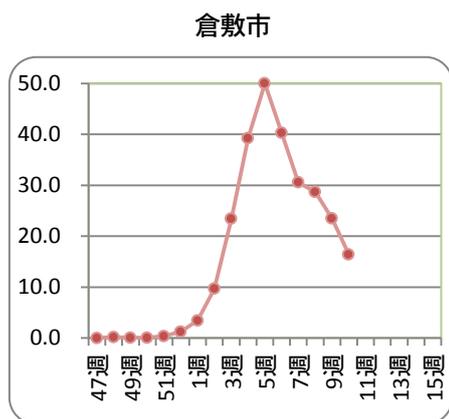
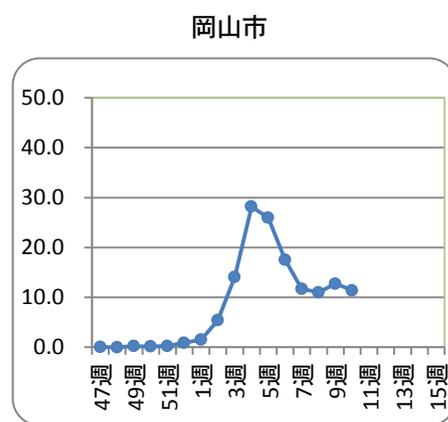
第10週 (3/4~3/10) 前週からの推移 (単位: 人)

地域名	発生状況		推移	地域名	発生状況		推移
岡山県全体	患者数	1,001	↓	備 中	患者数	172	↓
	定点あたり	11.92			定点あたり	14.33	
岡山市	患者数	251	↓	備 北	患者数	40	↓
	定点あたり	11.41			定点あたり	6.67	
倉敷市	患者数	263	↓	真 庭	患者数	33	↓
	定点あたり	16.44			定点あたり	11.00	
備 前	患者数	145	↑	美 作	患者数	97	↓
	定点あたり	9.67			定点あたり	9.70	

【記号の説明】 前週からの推移: 2倍以上の減少 ↓ 1.1~2倍未満の減少 ↓ 1.1未満の増減 →
 1.1~2倍未満の増加 ↑ 2倍以上の増加 ↑

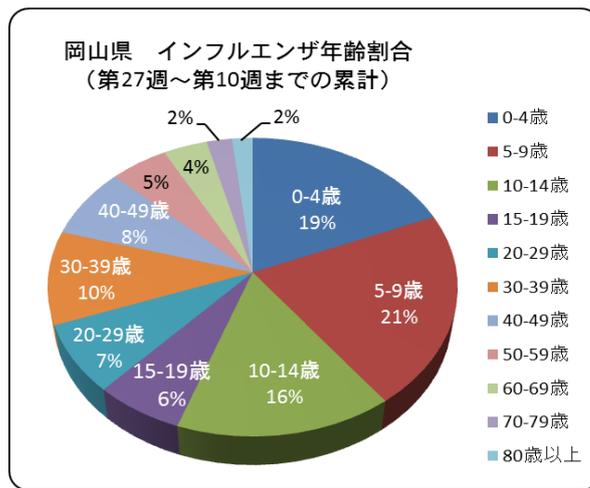
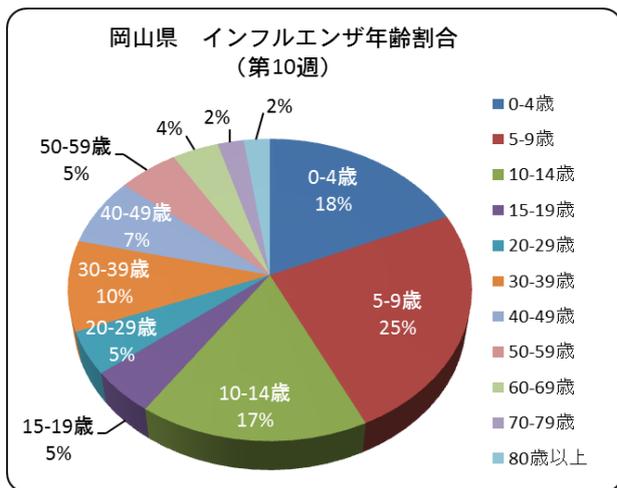
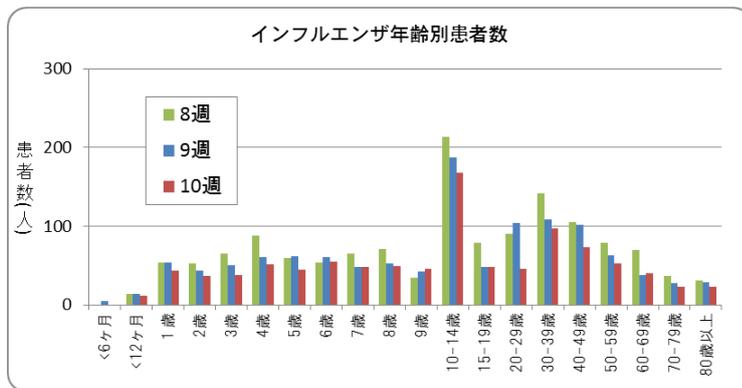


全国集計第9週(2/25~3/3)の定点あたり患者数は12.26人となり、前週(13.90人)よりも減少しました。第5週以降減少が続いており、39都道府県で前週の報告数より減少しました。

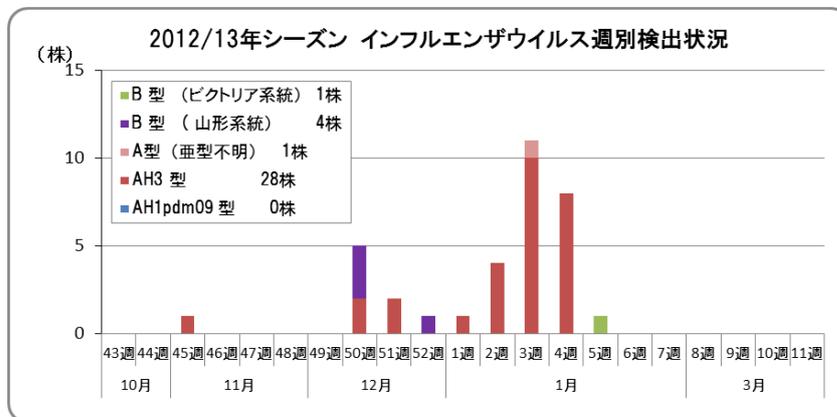


2. 年齢別発生状況 第10週 (3/4~3/10)

第10週の患者の年齢割合は5-9歳が25%、0-4歳が18%、10-14歳が17%の順でした。幼児・小学生・中学生に該当する年齢層が患者の60%を占めており、この年齢層が占める割合が徐々に増加しています。学校の臨時休業も依然として報告されていますので、ひきつづき集団生活の中での感染に注意してください。



3. インフルエンザウイルス検出状況 第10週 (3/4~3/10)



第4週に総社市、新見市、真庭市で発生した学校の臨時休業の患者計4名からインフルエンザウイルスAH3型が検出されました。これまでに環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスは、AH3型が28株、A型(亜型不明)が1株、B型(山形系統)が4株、B型(ビクトリア系統)が1株です。

全国で検出されたインフルエンザウイルスは、AH3型が最も多く87%、B型が11%、AH1pdm09型が2%の順になっており、昨シーズン同様AH3型が主流になっています。

(インフルエンザウイルス分離・検出速報 国立感染症情報センター)

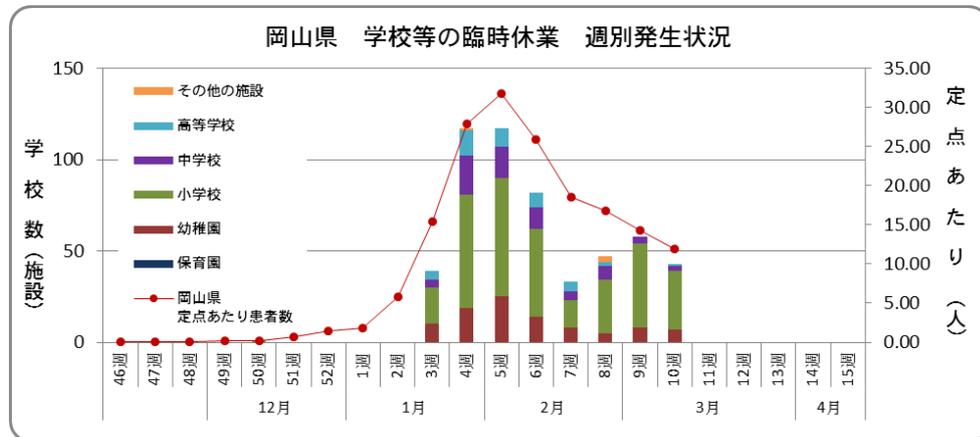
ウイルス名	検体採取週	検体採取日	地域	年齢	性別	備考
インフルエンザウイルス AH3 型	2013 年第 4 週	2013 年 1 月 21 日	総社市	小学生	女	
インフルエンザウイルス AH3 型	2013 年第 4 週	2013 年 1 月 21 日	新見市	小学生	女	
インフルエンザウイルス AH3 型	2013 年第 4 週	2013 年 1 月 21 日	真庭市	小学生	女	
インフルエンザウイルス AH3 型	2013 年第 4 週	2013 年 1 月 21 日	真庭市	小学生	女	

4. インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数 第10週 (3/4~3/10)

インフルエンザとみられる学校等の臨時休業が43施設でありました。

◆第10週 臨時休業施設数

▽岡山市 13 ▽倉敷市 9 ▽玉野市 5 ▽井原市 4 ▽津山市 4 ▽笠岡市 2 ▽真庭市 2 ▽矢掛町 1
▽新見市 1 ▽美作市 1 ▽勝央町 1



1) 有症者数・欠席者数および臨時休業措置の内訳 第10週

地域名*	有症者数		うち 欠席者数		施設数合計		休園・休校数		学年閉鎖 施設数		学級閉鎖 施設数		初発 年月日
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	
岡山県全体	579	7441	431	5503	43	538	2	21	17	175	24	342	H 24. 11. 6
岡山市	225	2791	168	2026	13	177	0	2	2	28	11	147	H24. 11. 6
倉敷市	112	1715	76	1227	9	104	0	1	1	15	8	88	H25. 1. 15
備前地域	50	843	39	641	5	77	0	4	2	36	3	37	H25. 1. 15
備中地域	117	1060	88	858	7	88	1	6	5	41	1	41	H24. 12. 12
備北地域	6	293	4	224	1	30	0	3	1	22	0	5	H25. 1. 21
真庭地域	16	115	13	81	2	10	0	1	2	7	0	2	H25. 1. 21
美作地域	53	624	43	446	6	52	1	4	4	26	1	22	H25. 1. 15

* 地域名は、保健所管轄地域を表しています

2) 臨時休業施設数の内訳

第10週 : 43施設

累計 : 538施設

	保育所		幼稚園		小学校		中学校		高等学校		その他	
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計
施設数	—	—	7	96	32	318	3	74	1	46	0	4

◆ インフルエンザによる出席停止期間が改正されました。

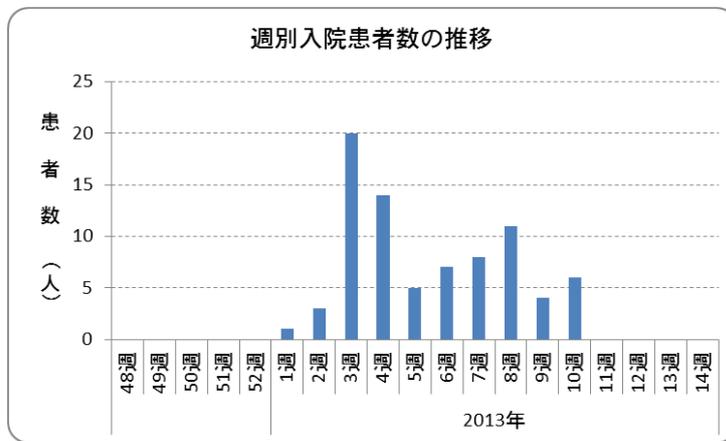
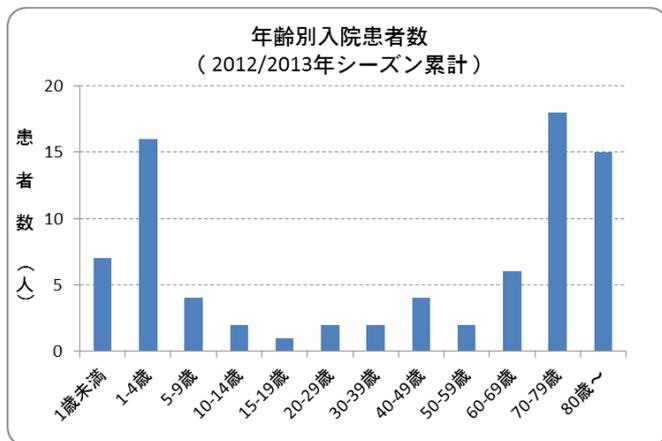
平成24年4月1日より、学校保健安全法施行規則が一部改正され、インフルエンザの出席停止期間が「解熱した後2日を経過するまで」から「発症した後5日を経過し、かつ、解熱した後2日(幼児にあっては、3日)を経過するまで」に改正されました。水分を十分にとり、安静にして休養をとりましょう。

※ [学校保健安全法施行規則の一部を改正する省令の施行について\(通知\)](#)

5. インフルエンザによる入院患者報告数 第10週(3/4~3/10) (県内基幹定点5医療機関による報告)

インフルエンザによる入院患者は6名(幼児4名、70代2名)の報告がありました。10歳未満の幼児、70歳以上の高齢者で入院患者が増加しています。

幼児や高齢者、慢性疾患・代謝疾患をもつ人、免疫機能が低下している人などでは重症化することがありますので注意が必要です。幼児ではまれに脳炎を起こすことがあります。水分をとった後すぐ吐いてしまう、元気がない、意識がはっきりせずうとうとしている、けいれんを起こす、このような症状がみられるときは、すぐに医療機関に相談しましょう。



【第10週 入院患者報告数】

年齢	1歳未満	1~4歳	5~9歳	10~14歳	15~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70~79歳	80歳以上	計*
入院患者数		4									2		6
ICU入室													
人工呼吸器の利用													
頭部CT検査(予定含)													
頭部MRI検査(予定含)													
脳波検査(予定含)													
いずれにも該当せず		4									2		6

*重複あり

【平成24年9月3日以降に入院した患者の累計数】

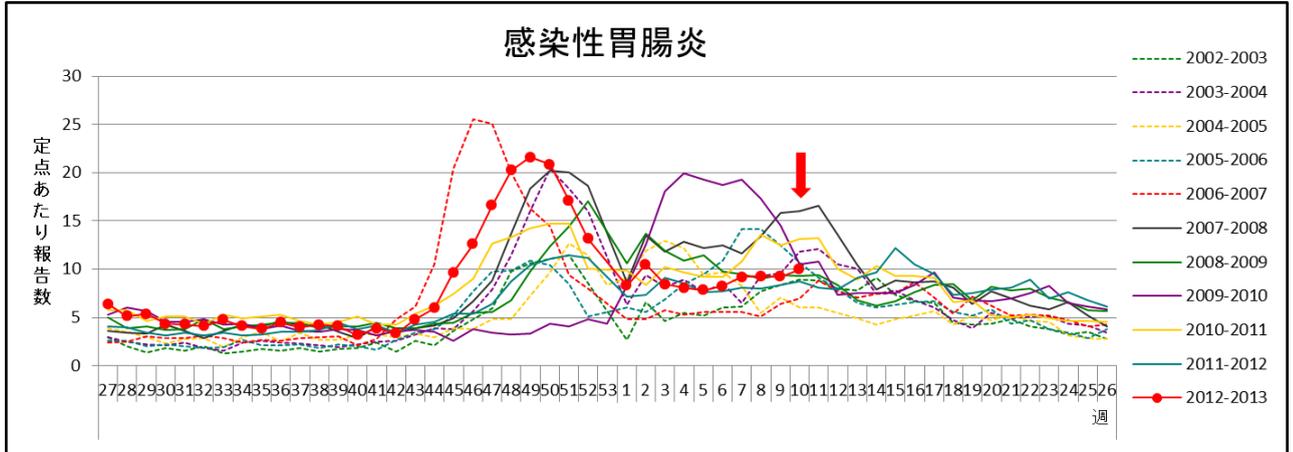
年齢	1歳未満	1~4歳	5~9歳	10~14歳	15~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70~79歳	80歳以上	計*
入院患者数	7	16	4	2	1	2	2	4	2	6	18	15	79
ICU入室										1			1
人工呼吸器の利用							1			1			2
頭部CT検査(予定含)		3	2	1	1	1	1				2		11
頭部MRI検査(予定含)		3	1		1		1						6
脳波検査(予定含)		1					1						2
いずれにも該当せず	7	12	1	1		1	1	4	2	5	16	15	65

*重複あり

感染性胃腸炎情報 2013 年 第 10 週 (3 月 4 日 ~ 3 月 10 日)

【お知らせ】 次週、第 11 週(3/11~3/17)の感染性胃腸炎情報は 3 月 25 日(月)にホームページに掲載いたします。

○岡山県内の患者報告数は 538 名 (定点あたり 9.96 人) であり、前週とほぼ同数でした。(54 定点医療機関報告)



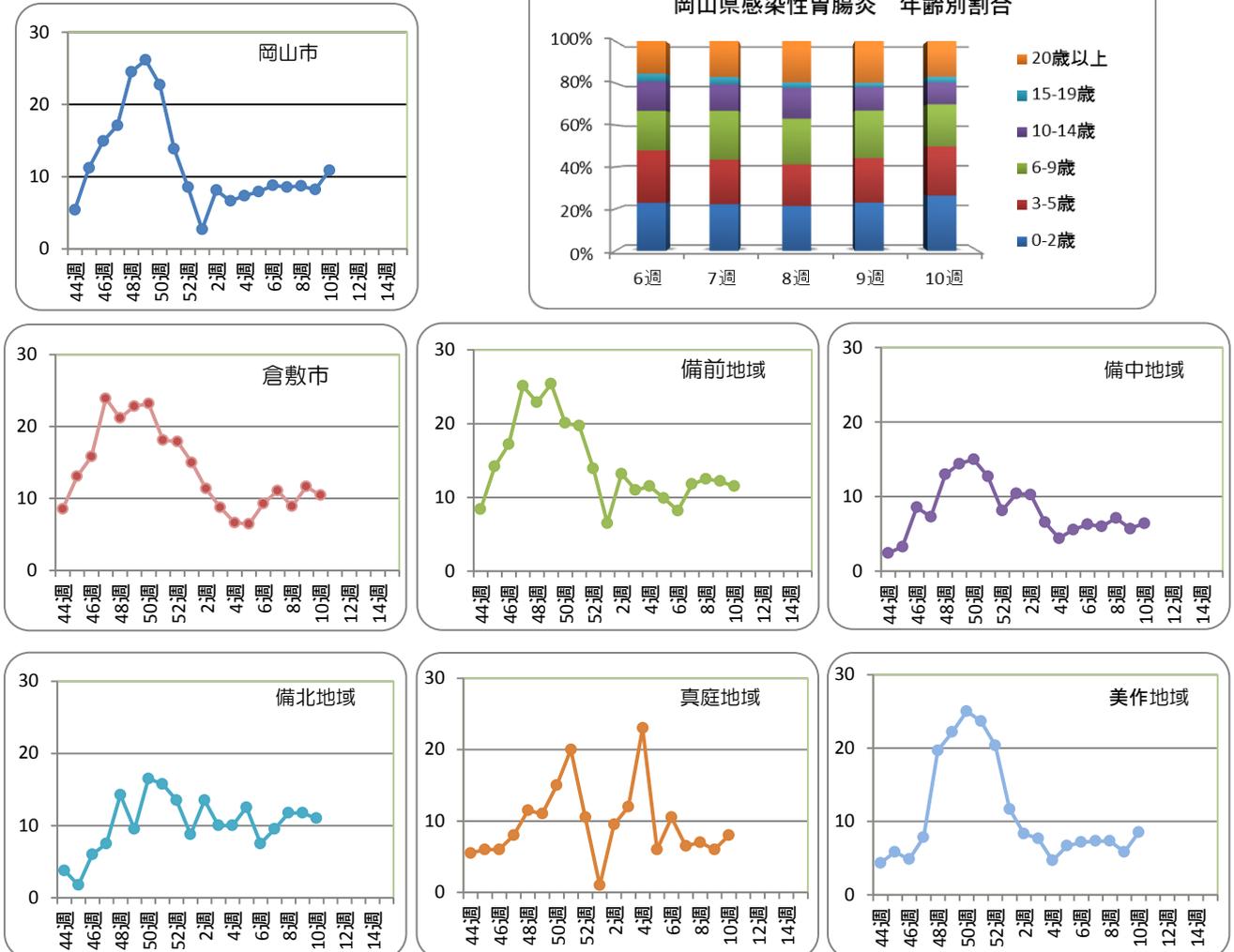
※感染性胃腸炎は秋から翌年の春にかけて流行するため、前年 27 週 ~ 今年 26 週を 1 シーズンとして、グラフを作成しています。

感染性胃腸炎は、前週とほぼ同数で (定点あたり 9.24 → 9.96 人)、第 3 週以降横ばいで推移しています。地域別では、備前地域 (11.50 人)、備北地域 (11.00 人)、岡山市 (10.86 人)、倉敷地域 (10.45 人) で患者が多くなっています。年齢別では、5 歳以下の幼児が全体の 49% を占めています。

患者の大きな増加はありませんが、依然として流行期にあります。手洗いの徹底や、下痢便・吐物の適切な処理など感染予防と拡大防止に努めてください。小さなお子さんや高齢者の方は、嘔吐や下痢により脱水症を起こすこともありますので、体調の変化に注意し、早めに医療機関を受診してください。

また、例年の傾向として、これから春にかけて、0~2 歳の乳幼児を中心にロタウイルスによる胃腸炎も増加してきます。主な症状は嘔吐と下痢で、ノロウイルスに比べ重症度が高いといわれていますので注意が必要です。

◆地域別・年齢別発生状況



保健所別報告患者数 2013年 10週 (2013/03/04～2013/03/10)

2013年3月13日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	1001	11.92	251	11.41	263	16.44	145	9.67	172	14.33	40	6.67	33	11.00	97	9.70
RSウイルス感染症	10	0.19	5	0.36	3	0.27	-	-	-	-	1	0.25	-	-	1	0.17
咽頭結膜熱	10	0.19	2	0.14	1	0.09	-	-	-	-	-	-	1	0.50	6	1.00
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	51	0.94	23	1.64	11	1.00	1	0.10	3	0.43	-	-	-	-	13	2.17
感染性胃腸炎	538	9.96	152	10.86	115	10.45	115	11.50	45	6.43	44	11.00	16	8.00	51	8.50
水痘	45	0.83	18	1.29	11	1.00	10	1.00	3	0.43	-	-	-	-	3	0.50
手足口病	6	0.11	4	0.29	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	0.33
伝染性紅斑	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	31	0.57	12	0.86	7	0.64	7	0.70	-	-	1	0.25	1	0.50	3	0.50
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	3	0.06	1	0.07	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	0.33
急性出血性結膜炎	2	0.17	2	0.40	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	5	0.42	4	0.80	1	0.25	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	1	0.20	-	-	1	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	4	0.80	2	2.00	2	2.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	2	0.40	-	-	2	2.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2013年 10週 (2013/03/04~2013/03/10)

2013年3月13日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	1001	11.92	251	11.41	263	16.44	145	9.67	172	14.33	40	6.67	33	11.00	97	9.70
咽頭結膜熱	10	0.19	2	0.14	1	0.09	-	-	-	-	-	-	1	0.50	6	1.00
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	51	0.94	23	1.64	11	1.00	1	0.10	3	0.43	-	-	-	-	13	2.17
感染性胃腸炎	538	9.96	152	10.86	115	10.45	115	11.50	45	6.43	44	11.00	16	8.00	51	8.50
水痘	45	0.83	18	1.29	11	1.00	10	1.00	3	0.43	-	-	-	-	3	0.50
手足口病	6	0.11	4	0.29	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	0.33
伝染性紅斑	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	3	0.06	1	0.07	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	0.33
急性出血性結膜炎	2	0.17	2	0.40	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	5	0.42	4	0.80	1	0.25	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

濃黄セルに赤字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル3
薄黄セルに黒数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2 を示しています。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2013年 第10週 2013/03/04~2013/03/10)

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80~
インフルエンザ	1001	1	12	44	37	38	52	45	55	49	50	46	168	48	46	97	73	53	41	23	23

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20~
RSウイルス感染症	10	3	3	1	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	10	-	-	4	1	2	1	1	-	-	-	1	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	51	-	-	1	3	8	9	6	5	5	6	1	4	-	3
感染性胃腸炎	538	2	20	69	51	42	49	35	40	25	24	19	55	16	91
水痘	45	2	4	12	7	6	3	3	4	-	1	2	1	-	-
手足口病	6	-	1	2	1	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	31	2	11	15	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	3	-	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70~
急性出血性結膜炎	2	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3	-	-	1	-

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70~
細菌性髄膜炎	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	4	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	2	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1

(- : 0)

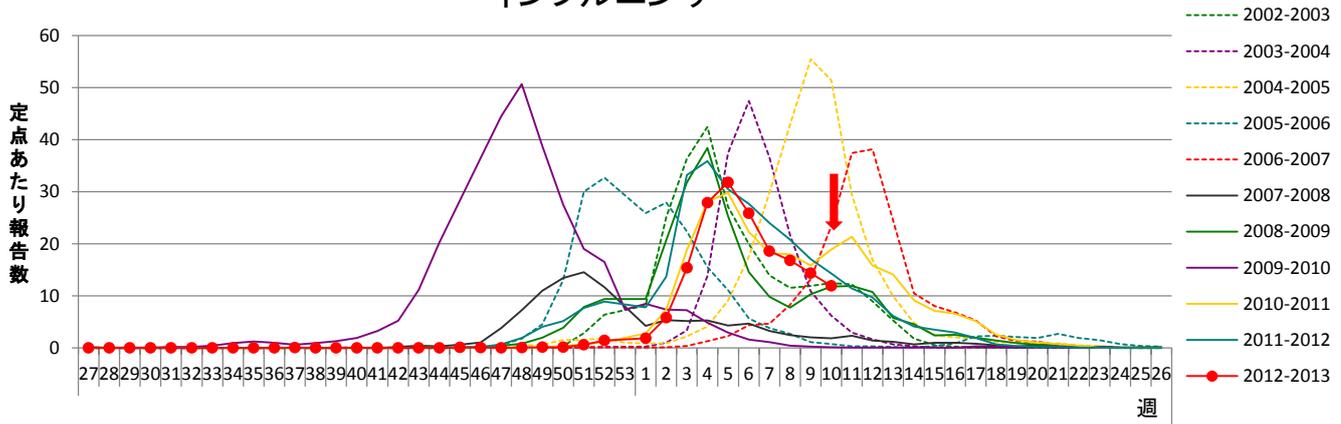
全数把握 感染症患者発生状況

2013年 10週

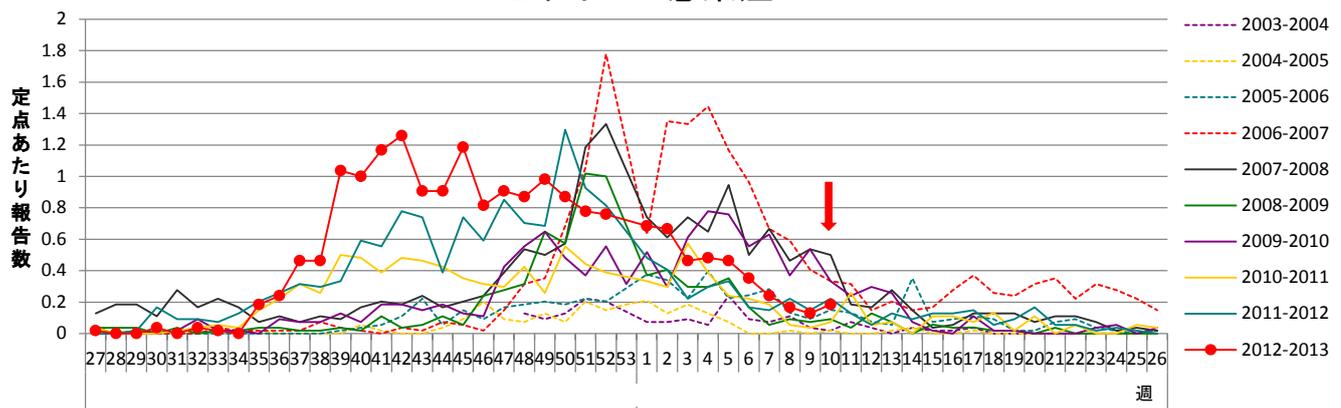
分類	疾病名	2013			疾病名	2013			疾病名	2013		
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	痘そう	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	ペスト	-	-	-	マールブルグ病	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-								
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核	3	51	477	ジフテリア	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-				
三類	コレラ	-	-	-	細菌性赤痢	-	-	-	腸管出血性大腸菌感染症	-	2	169
	腸チフス	-	-	1	パラチフス	-	-	-				
四類	E型肝炎	-	-	-	ウエストナイル熱	-	-	-	A型肝炎	-	3	2
	エキノкокクス症	-	-	-	黄熱	-	-	-	オウム病	-	-	-
	オムスク出血熱	-	-	-	回帰熱	-	-	-	キャサヌル森林病	-	-	-
	Q熱	-	-	-	狂犬病	-	-	-	コクシジオイデス症	-	-	-
	サル痘	-	-	-	重症熱性血小板減少症候群	-	-	-	腎症候性出血熱	-	-	-
	西部ウマ脳炎	-	-	-	ダニ媒介脳炎	-	-	-	炭疽	-	-	-
	チクングニア熱	-	-	-	つつが虫病	-	-	2	デング熱	-	-	1
	東部ウマ脳炎	-	-	-	鳥インフルエンザ	-	-	-	ニパウイルス感染症	-	-	-
	日本脳炎	-	-	-	日本紅斑熱	-	-	-	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-
	Bウイルス病	-	-	-	鼻疽	-	-	-	ブルセラ症	-	-	-
	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	発しんチフス	-	-	-
	ポツリヌス症	-	-	-	マラリア	-	-	-	野兎病	-	-	-
	ライム病	-	-	-	リッサウイルス感染症	-	-	-	リフトバレー熱	-	-	-
	類鼻疽	-	-	-	レジオネラ症	1	6	29	レプトスピラ症	-	-	-
	ロッキー山紅斑熱	-	-	-								
五類	アメルバ赤痢	1	2	11	ウイルス性肝炎*3	-	-	7	急性脳炎*4	-	1	2
	クリプトスポリジウム症	-	-	-	クロイツフェルト・ヤコブ病	-	1	1	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	-	-	1
	後天性免疫不全症候群	1	4	15	ジアルジア症	-	-	3	髄膜炎菌性髄膜炎	-	-	-
	先天性風しん症候群	-	-	-	梅毒	-	2	7	破傷風	-	-	1
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	-	-	-	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	-	2	風しん	1	8	6
	麻しん	-	-	6								

今週から、四類感染症に重症熱性血小板減少症候群（SFTS）が追加され、集計対象になります。

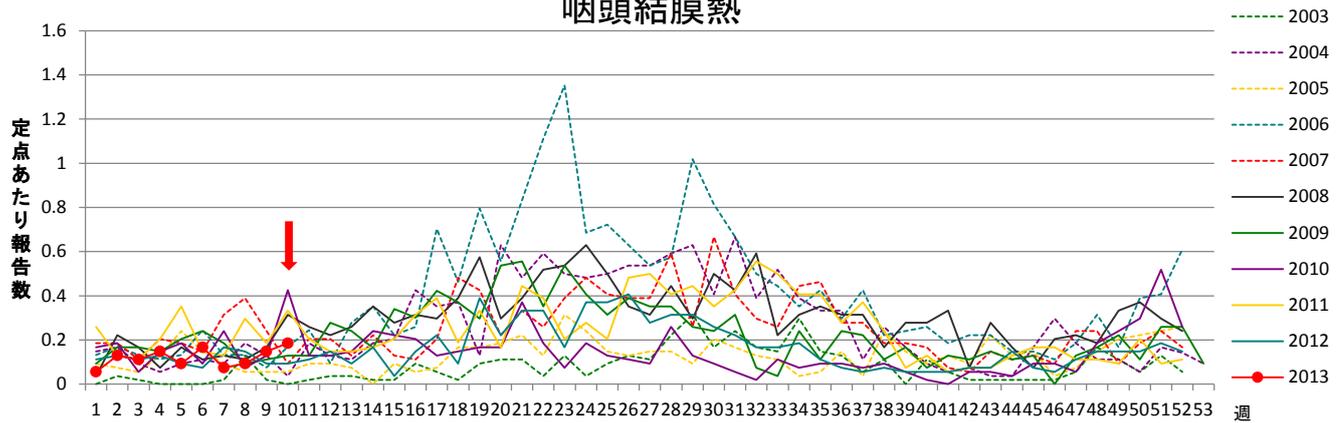
インフルエンザ



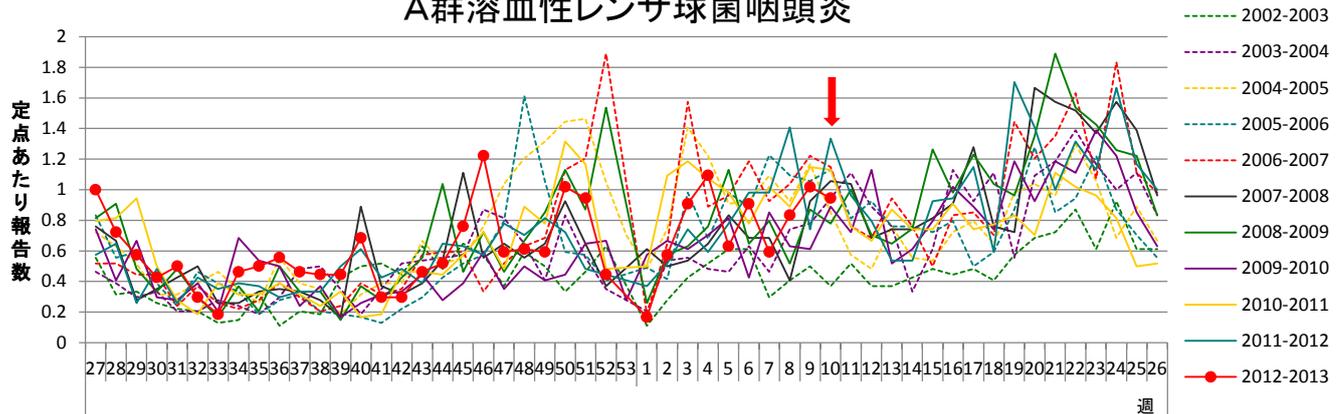
RSウイルス感染症



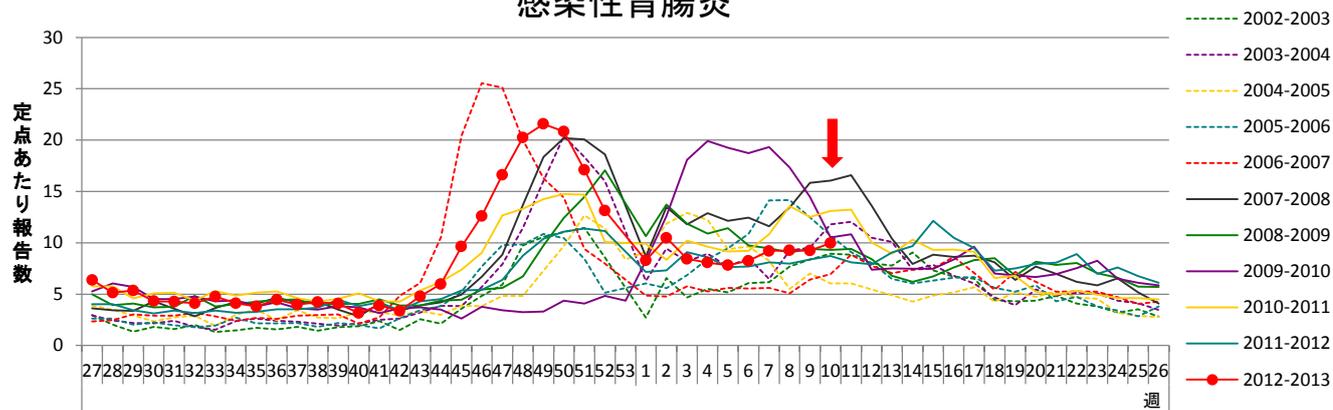
咽頭結膜熱



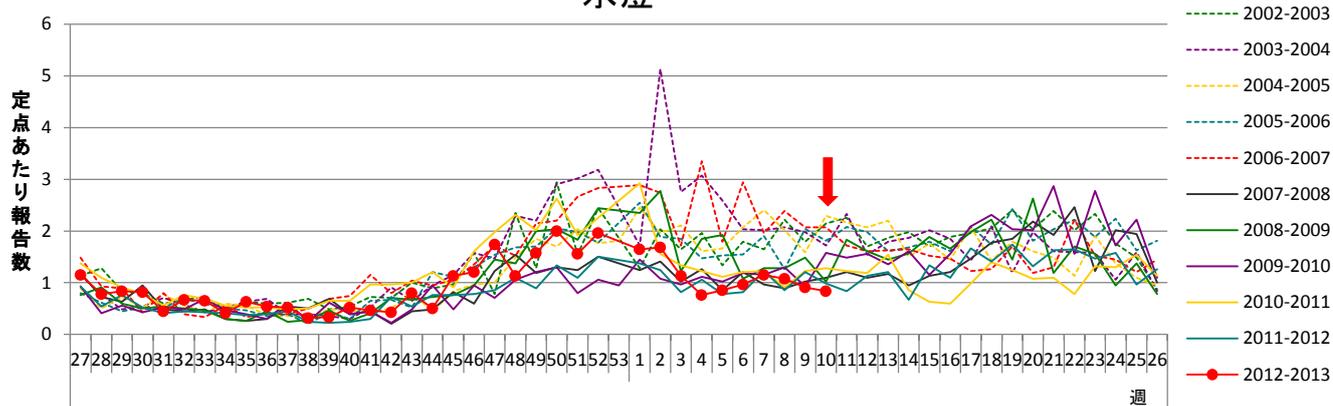
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



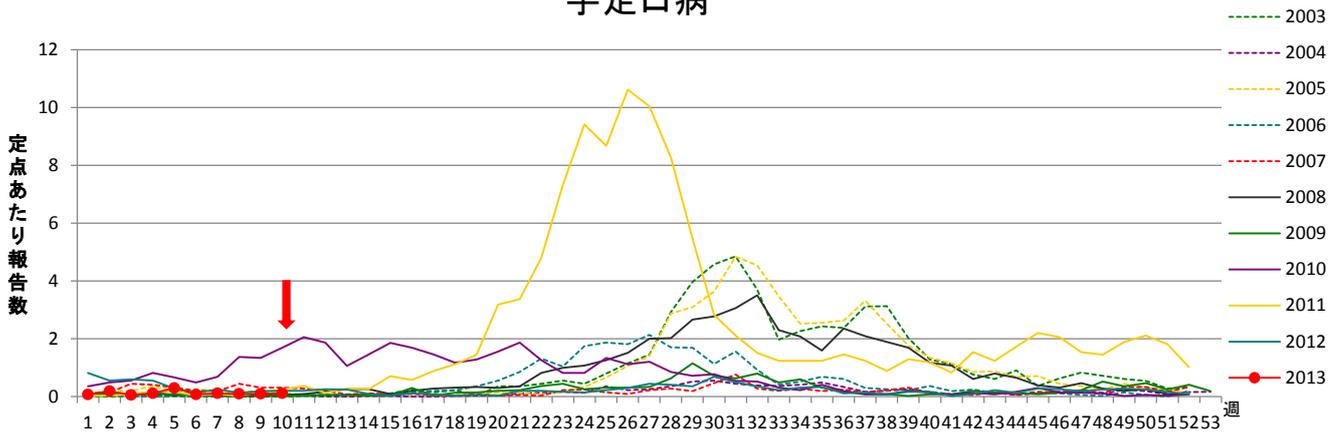
感染性胃腸炎



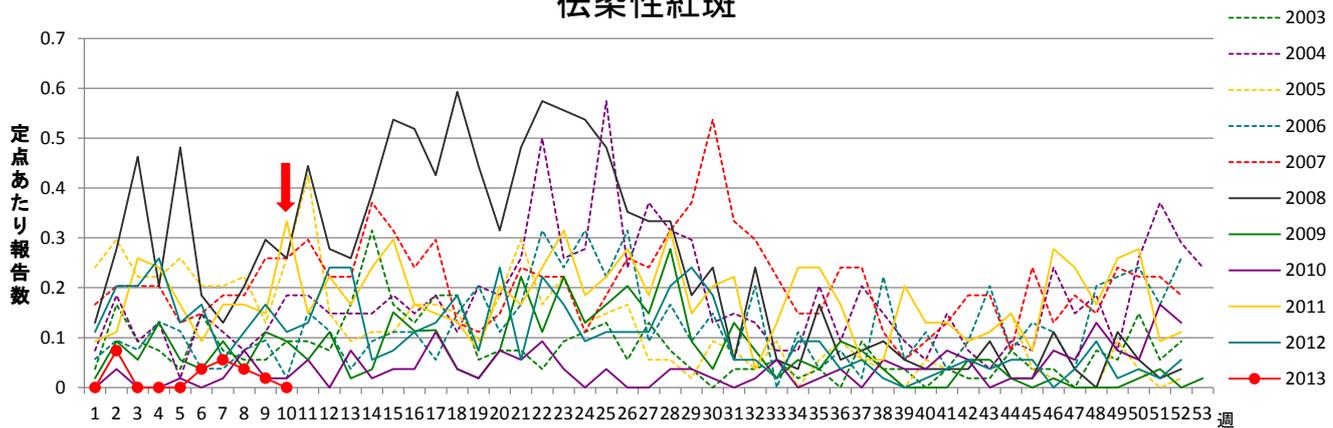
水痘



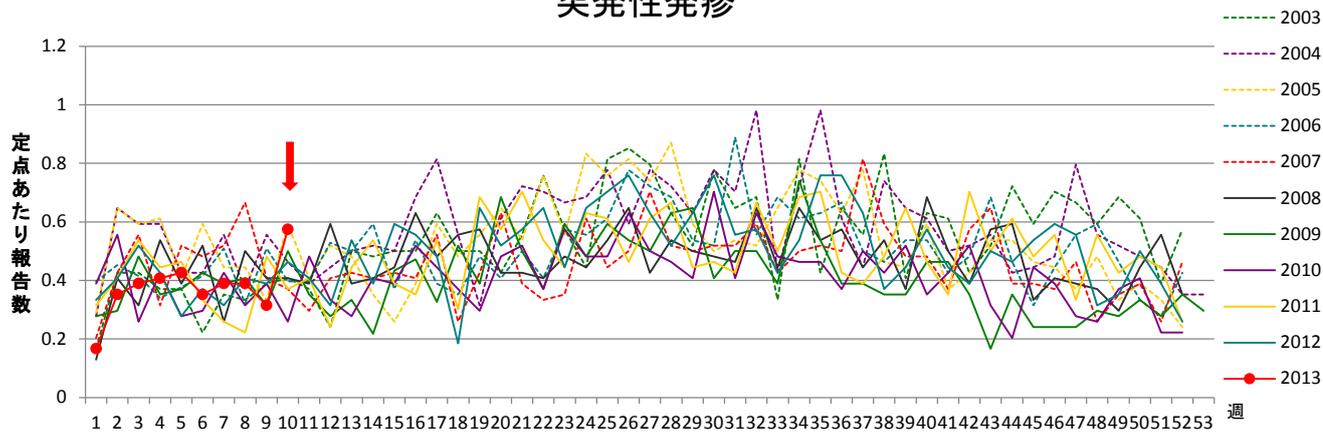
手足口病



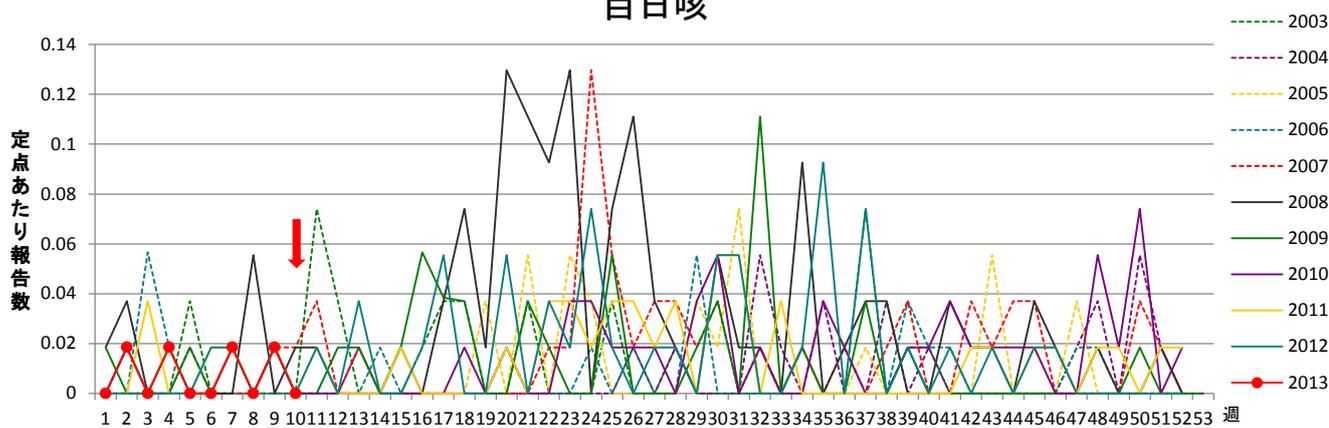
伝染性紅斑



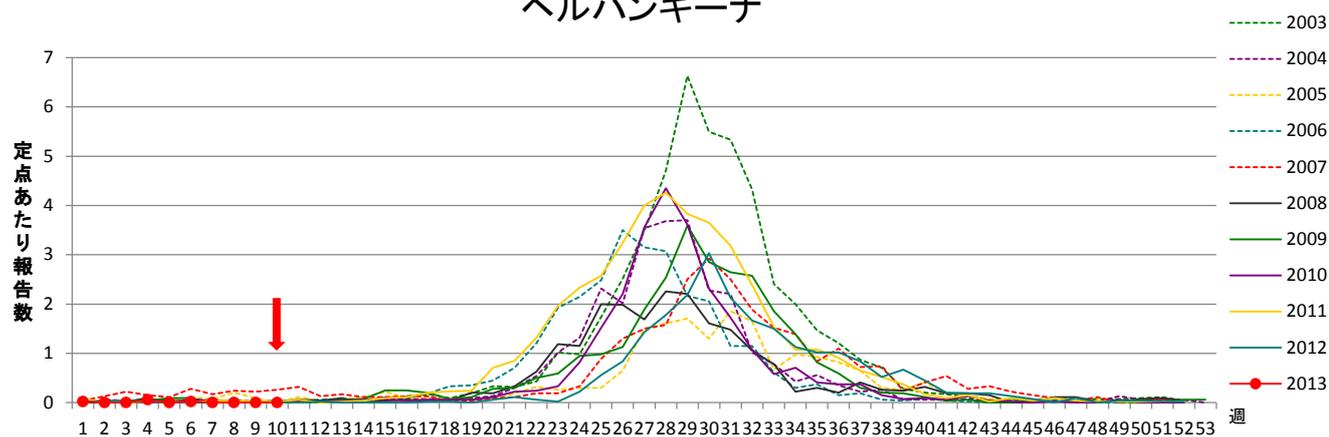
突発性発疹



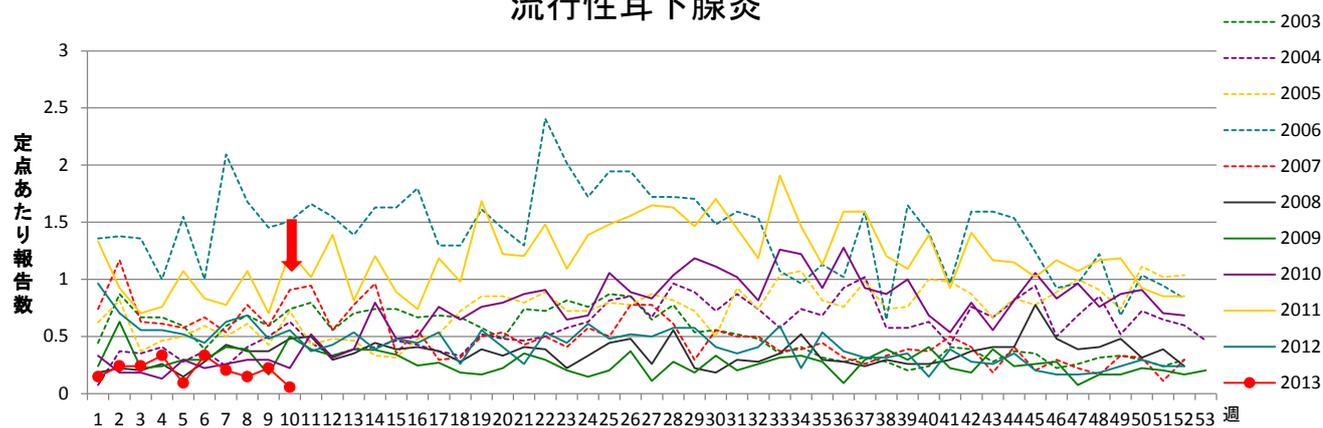
百日咳



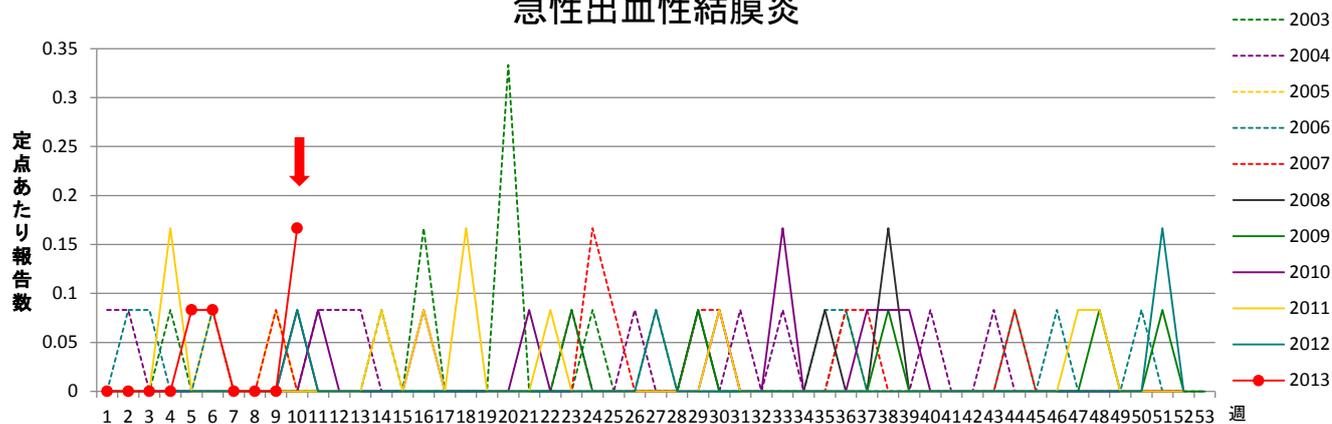
ヘルパンギーナ



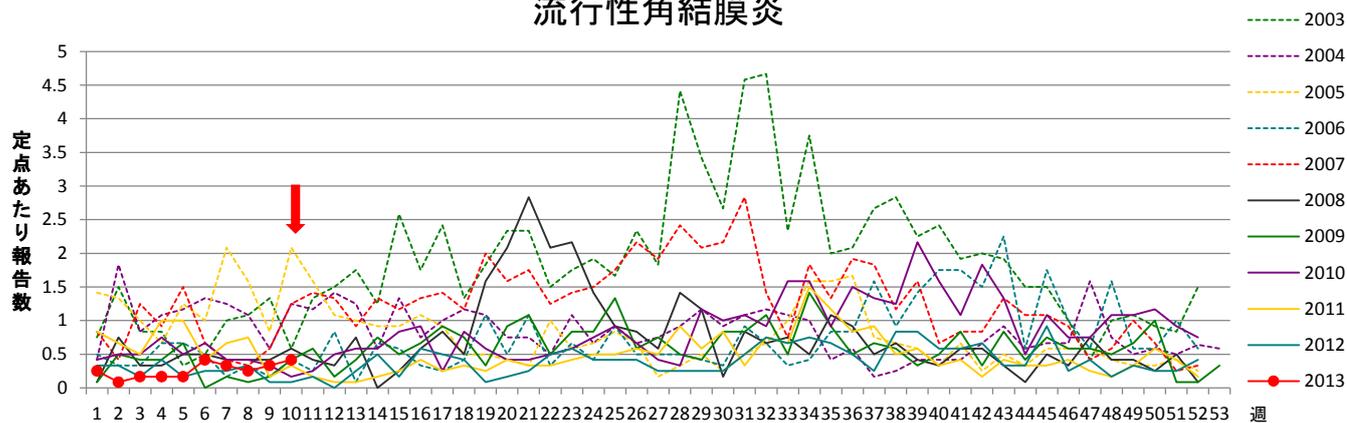
流行性耳下腺炎



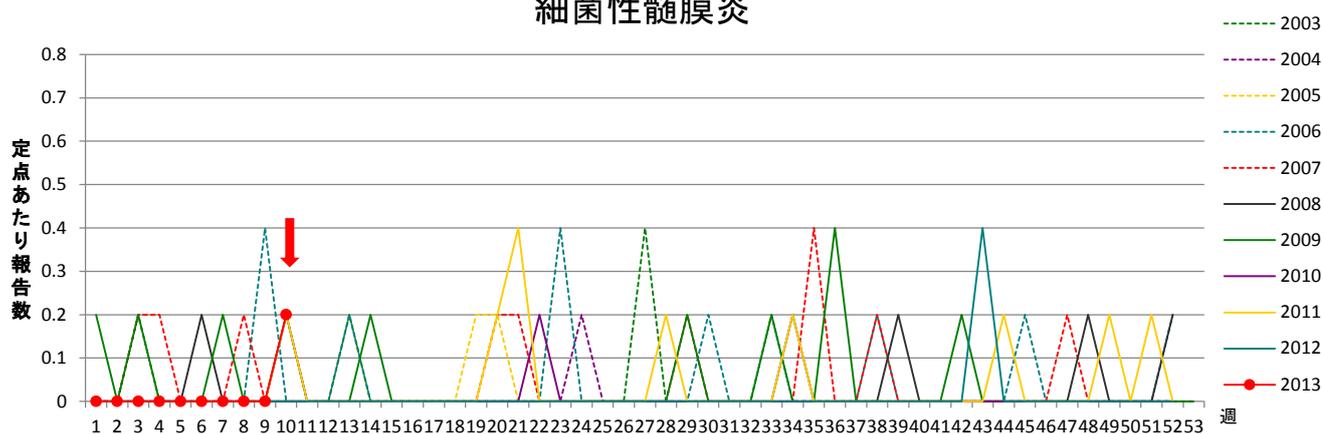
急性出血性結膜炎



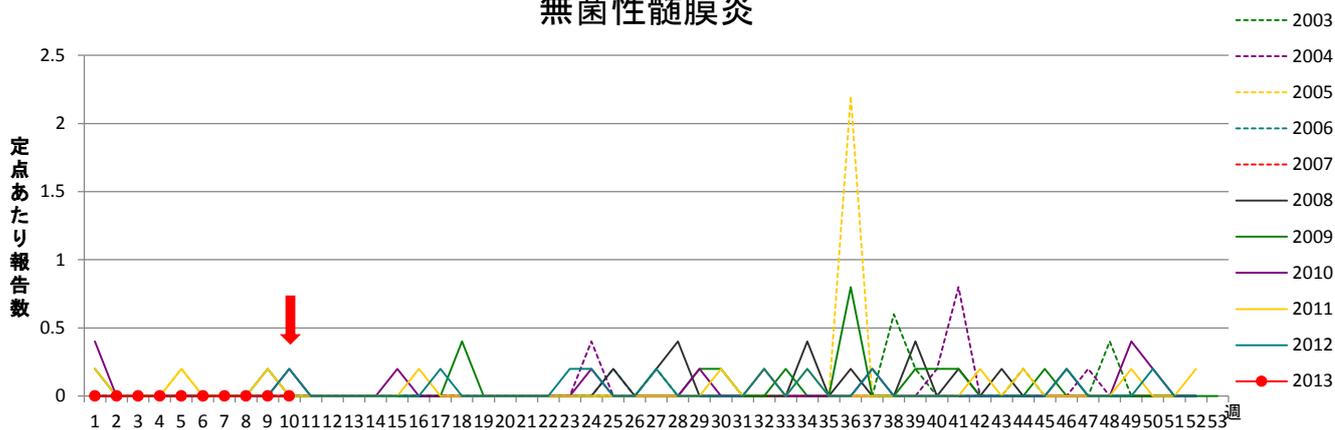
流行性角結膜炎



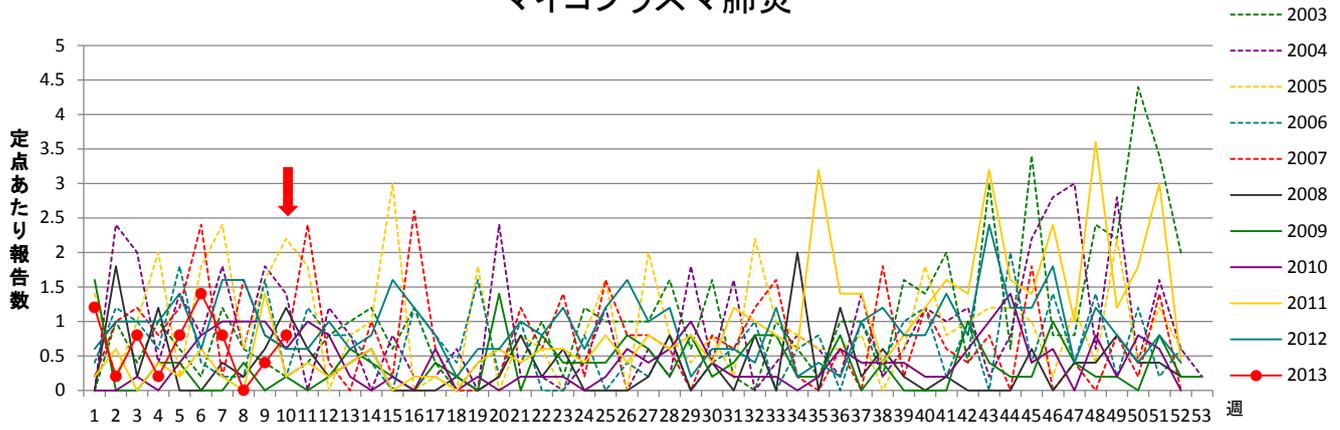
細菌性髄膜炎



無菌性髄膜炎



マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎

